

平成23年(2011年)11月1日発行

平成23年度 科学研究費助成事業交付決定

平成23年度科学研究費助成事業の交付決定が文部科学省及び日本学術振興会から通知され、本学の交付決定者は30名(継続19名・新規11名)となった。

平成23年度新規採択分からは一部の研究種目で制度改正があり、基盤研究(C)等が基金化され、複数年にわたる研究費の使用が可能となった。また、研究の進捗状況により前倒し・繰越も可能となり、研究費が使いやすく、柔軟な研究遂行ができるようになった。

採択年度	採択年度
■基盤研究B	■基盤研究C
カーボン系薄膜の極低摩擦のメカニズム追求とその応用に関する研究 H21 三宅 正二郎	WC-Co合金工具のリユースのためのダイヤモンド膜除去技術の開発 H22 竹内 貞雄
■挑戦的萌芽	導電性ダイヤモンドのプレス成型への適用技術開発 H22 古閑 伸裕
2次元フラクタルツリーの非線形振動特性に関する研究 H23 増本 憲泰	プラスチック射出成形におけるバリ発生評価金型の開発 H23 村田 泰彦
■新学術領域研究	極微細径工具による切削特性解明および超音波振動切削システムの開発 H22 神 雅彦
テンソル力に適した巨大次元一般モデルによる中性子過剰ハイパー核の構造研究 H23 梅谷 篤史	高速・高精度・大ストロークを有する、放電加工用5自由度制御型アクチュエータの研究 H23 張 暁友
■若手研究B	可処分時間を考慮した産業の生産性および環境効率の評価 H23 八木田 浩史
導電性ダイヤモンドを原料とする新PCD工具の開発とその加工法に関する研究 H22 二ノ宮 進一	耐熱性を改善させた硬質炭素系トライボコーティングの開発 H22 渡部 修一
カオスニューラルネットワークを用いた太陽光発電最適動作点追尾アルゴリズムの開発 H23 木村 貴幸	血管内移動を目的とした自走カテーテルの研究 H20 中里 裕一
■研究活動スタート支援	活性化酵素による酸化ストレス評価用マイクロアレイチップの研究 H22 伴 雅人
無線多重アクセス制御方法に関する研究 H22 平栗 健史	アクチンゲルの振動メカニズムの解明 H23 佐野 健一
	金属容器中の非接触液体検出手法に関する研究 H23 青柳 稔
	正準形決定論的P S Oの理論解析とその応用 H22 神野 健哉
	対話型映像メディア技法による教育システムと教材映像制作技法の研究 H22 新藤 義昭
	進化計算とニューラルネットワークを用いた群ロボットの効率的な制御の研究 H23 山地 秀美
	都市内の斜面緑地における冷気のにじみ出し現象の把握と温暖化対策としての利用可能性 H23 成田 健一
	近世町家の形成と多様な形式の発生要因—オランダ商館長などの記録を基礎史料に— H21 波多野 純
	関東における彫刻屋台の建築技術に関する研究 H21 黒津 高行
	有理型関数論の応用による複素関数方程式の研究 H22 石崎 克也
	GET: 語彙の意味概念について 認知的アプローチと概念拡張 H22 市川 泰弘
	ダイヤモンド三次元マイクロ金型による超高压下での実験的塑性流動解析 H22 野口 裕之
	理系学士課程における個に応じたコースデザインの開発 H22 田中 佳子
	中小製造企業における「製品化スキル」に関する研究 H22 小田 恭市

今夏の改修工事は、本年度着工予定のW2棟建替え(生活環境デザイン学科実験棟新築工事)の準備として、ゴミ集積所・仕分け場の整備が挙げられる。本工事は、LCセンター裏手の倉庫棟(S55棟)を改修し、キャンパス内から排出する全廃棄物を集め、一般廃棄物に留まらず産業廃棄物まで一括して分別可能にすることを目的に行われた。これにより、現行の

おおよそ中庭改修工事である。仕分け場(W2棟)の移設を図るとともに、これまで分散して設置していたゴミ集積所を無くし、両機能を一括管理することで管理面での改善を行った。

次に、ピザリアトレビ(第二食堂)のリノベーション工事である。これは、平成23年度の日本工業大学後援会特別事業として、屋外デッキ上にテント屋根を設置し、混雑緩和のために増席(約50席増)するものである。あわせて、厨房・ホール・什器類を16年ぶりに色鮮やかに改装し、提供メニューにふさわしく「イタリアンレストラン」をイメージできる学生憩いの場として、10月22日(土)にフルオープンした。(食事提供は、9月21日(水)から)

多くの学生からの要望にこたえ、6月10日(金)より7月29日(金)まで東武動物公園駅—大学間(徒歩約14分)でスクールバスを試験的に運行した。片道100円の乗車券または回数券、定期券をNITクリエイトのコンビニや食堂自販機で事前購入する形で実施し、1日当たりの乗車人数は、400人から、雨の日には700人以上となった。アンケートでは、新白岡駅からの運行や電車との接続、乗車券購入場所の拡大等があった。これらを踏まえ、9月21日(水)からは、JR宇都宮線の新白岡駅—大学間を

に加え、駅前の契約店で乗車券を購入できるようにし、電車との接続になるべく配慮した新ダイヤでスクールバスを運行している。これにより、宇都宮方面、新宿、渋谷、池袋方面からの通学も便利になった。また、運行会社のアサヒ観光からの申し出により、ひととき目を引くラッピングバスが運行中である。



ピザリアトレビの屋外デッキ上にテント屋根を設置

当初の計画では、本年度に解体、翌年度に中庭改修の計画であったが、東日本大震災の影響による工事の優先順位見直しや、平成29

(2017)年に迎える大学50周年を見据え、今回工事は解体跡地の仮整備までとした。今後の整備計画としては、改修のアイデアを学生・教職員より広く募集する予定である。

宮線の新白岡駅—大学間を

キャンパスリニューアル進捗状況

ピザリアトレビ拡張工事、旧図書館解体

スクールバス運行開始

東武動物公園駅、新白岡駅と大学間

11月5日(土) ホームカミングデー開催

今年で12回目を迎えるホームカミングデーが、11月5日(土)に開催される。全卒業生を対象としているので、これまで参加頂けなかった皆さんも是非参加いただきたい。また今回は昨年度卒業生の皆さん向けに、懇親会においてささやかな卒業祝賀も企画している。また研究室OB会参加の皆さんにも懇親会へ参加願いたい。当日は、博物館・各センターを中心とした学内見学ツアー、懇親会を行う。(ホームカミングデー実行委員会)



毎年多くのOB・OGが参加する懇親会

オープンキャンパスのお知らせ

11/26(土) 「入試直前対策を
チェックしよう!」
大学・学科紹介、学内施設公開、研究室ツアー、入試説明、
入試対策講座、個別進路相談など...

お問い合わせ・お申込み先: 入試室
☎0120-250-267 E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

11/4(金)▶6(日)

第43回若杉祭 テーマ smile



今年もステージイベント、各サークルによる企画、模擬店など、様々な催しが行われる(写真は昨年の様子)

今年も若杉祭の時期がやってきた。今年度は震災の影響などで準備に多少の遅れが出てしまった。しかしながら今年も若杉祭が開催できるのも、協力してくださる学校関係者や参加団体の皆様、地域の皆様あってのことである。我々大学祭実行委員会一同心より感謝している。

さて、今年の若杉祭のテーマは「smile」である。ご来場してくださった皆様はもちろん、参加協力して下さった団体の方々、ご協力いただいた学校の方々、当委員会の役員、全員が笑顔で楽しく若杉祭を盛り上げようという意気込みが込められたテーマである。当日皆さんのスマイルを見ることができれば、これまで準備してきた我々にとっては大変光栄なことである。ところで、今年の若杉祭の目玉だが、「秋のからっ風(こんさあ」と「FLOW」と「FLIP」の2つのバンドが来てくれることになっている。他にもお笑い芸人のトークや学生自治会の企画であるライブなど、豪華な企画目押しである。子どもから大人まで楽しめる企画や恒例の大抽選会も用意している。是非遊びに来ていただきたい。

(大学祭実行委員会委員長 後藤祐太郎)

日本工業大学 平成24年度入試日程

入試種別	日程
特別奨学生入試 [筆記試験、調査書 および面接による選考]	第2期 出願期間 1/6(金)~1/26(木) 試験日 2/1(水)~2/3(金) 本学(都合のよい日を選択)
一般入試	一般入試A 出願期間 1/6(金)~1/26(木) 試験日 2/1(水) 本学・郡山・水戸・高崎・千葉・東京・金沢・静岡 2/2(木) 本学・仙台・宇都宮・柏・東京・新横浜・新潟・長野 2/3(金) 本学・東京 一般入試B 出願期間 2/3(金)~2/16(木) 試験日 2/21(火) 本学・東京
センター利用入試	センター利用入試A センター利用入試B センター利用入試C 出願期間 1/6(金)~1/30(月) 2/3(金)~2/17(金) 2/20(月)~3/8(木)
AO入試	第3期 第4期 第5期 エントリー入試のエントリー期間 10/12(水)~11/18(金) 11/24(木)~12/15(木) 1/13(金)~3/5(月) コーディネーター入試の申込期間 平成24年2月29日(水)まで、随時受付 面談・面接等 書類受取後に連絡 出願期間 12/2(金)~12/13(火) 1/6(金)~1/12(木) 2/20(月)~3/9(金) 選考 書類審査等 合格発表 12/24(土) 1/20(金) 3/17(土)

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程

●機械工学専攻 ●電気工学専攻 ●建築学専攻 ●システム工学専攻 ●情報工学専攻
本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集! (日本工業大学 社会人特別選抜)

■平成24年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

募集	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
二次募集	2月6日(月)~2月14日(火)	2月22日(水)	書類選考・面接	3月2日(金)	3月12日(月)

願書のご請求およびお問い合わせ先: 教務部教務課 大学院入試係 TEL0480-33-7507(直通)

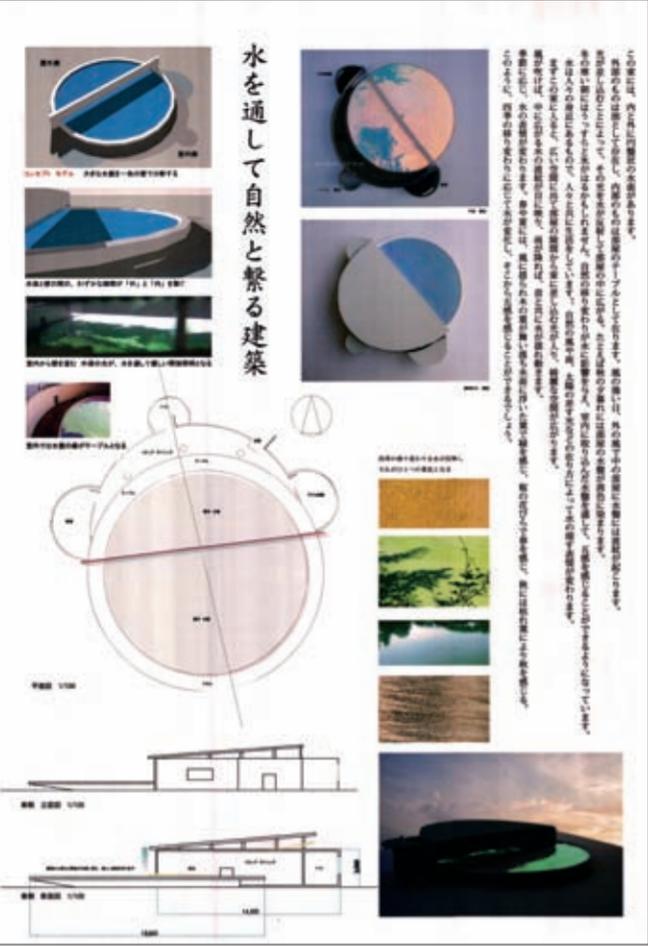
[試験会場は本学のほか、盛岡・長野・新潟・東京を設置! (専門高校入試(B工業科)、一般推薦入試(公募制))]
*専門高校入試(B工業科) <出願期間> 第1期: 10/20(木)~11/9(水)、第2期: 11/24(木)~12/13(火)
*一般推薦入試(公募制) <出願期間> 第1期: 11/1(火)~11/9(水)、第2期: 11/24(木)~12/13(火)
*各入試の詳細は、それぞれの「募集要項」でご確認ください。
願書のご請求およびお問い合わせ先
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 入試室
☎0120-250-267 URL: http://www.nit.ac.jp/ E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

第25回日本工業大学建築設計競技

五感に響く「いえ」

69校より212点の応募。11/6に表彰式を開催。

1等 落合 鷹人さん受賞作品



審査委員長 若松 均

この課題は、高校生を対象としたコンペということ、「住むこと」または、「いえ」について、また体験、知識も決して豊富でない皆さんに、この時期に是非取り組んで欲しいテーマとして、できるだけ根源的な問いかけにしようと考えたのです。今の自分と真剣に向き合い、「五感に響く「いえ」」について、想像を巡らせてみて欲しいと思っ

テーマを見たときは困惑しました。どのようにして五感に響かせれば良いのか見当もつきませんでした。そこで直接的なものに頼るのではなく「何か」を通して間接的に五感に響くような建築物を作りたいと思いました。

水をテーマに選んだ後は、段々とイメージが形になり完成に至りました。水は風

呂や洗濯、その他さまざまな事でよく使われていて、私たちの生活では不可欠な存在ですが、それを大胆に建築に取り込むことによつて不思議な空間ができました。

自然や天候の変化で、水の変化を室内に反映させるのがこの家の特徴です。私は模型の製作、3Dの作業など初めての経験でしたが、達成感がありました。

一生懸命取り組んだ結果、このような評価を頂き光栄に思います。ありがとうございます。



神戸市立科学技術高等学校 都市工学科(3年) 落合 鷹人

悩んだ末の結果

建築を学ぶ日本全国の高校生を対象に実施される日本工業大学建築設計競技は、今年度で第25回となる。今回は、審査委員長に建築家の若松均氏を迎え、「五感に響く「いえ」」を課題とした。

69校より212点の応募があった。入賞作品は11月4日(金)から6日(日)まで、本学大学祭期間中にLCCセンターで展示され、6日には同センター・マルチメディア教室で表彰式と審査委員長による講評とスライドレクチャーが行われる。

予想を超えた新鮮な案に出会うことができた。

審査委員長 若松 均

この課題は、高校生を対象としたコンペということ、「住むこと」または、「いえ」について、また体験、知識も決して豊富でない皆さんに、この時期に是非取り組んで欲しいテーマとして、できるだけ根源的な問いかけにしようと考えたのです。今の自分と真剣に向き合い、「五感に響く「いえ」」について、想像を巡らせてみて欲しいと思っ

講評

数々に、驚かされると同時に、懸念はすぐに払拭されました。

落合鷹人さんの1等案は、自然の海や川をメインテーマにした案が多い中であつて、「水」はあくまで媒介として扱った点が秀逸でした。円盤状の水面にまつさまざまな壁が横切るシンプルな仕掛けですが、この手続き(構成)だけで四季の移り変わり、自然を体感させようとした作品です。敢えて外部を遮断し、眺望に頼らずに、限定した空間の中で「五感に響く「いえ」」を表現したことに、説得力を感じました。

普段は、具体的な敷地を想定した課題を通して、大学の建築学科の学生と接していますが、高校生がここまで思考できることを頼もしく思いました。予想を超えた新鮮な案に出会えて充実した審査を終えることができました。

審査結果	高校・高専名	氏名
一 等	神戸市立科学技術高等学校	落合 鷹人
二 等	北海道札幌工業高等学校	○中谷 鴻和也
三 等	兵庫県立兵庫工業高等学校	鈴木 佑弥
審査員賞(若松均)	静岡県立浜松工業高等学校	野田 恒介
審査員賞(小川次郎)	新潟県立上越総合技術高等学校	西條 夏美
審査員賞(勝木祐二)	兵庫県立神戸工業高等学校	神木 拓磨
佳 作	国立呉工業高等専門学校	吉川 直輝
佳 作	兵庫県立兵庫工業高等学校	松原 佑弥
佳 作	三重県立四日市工業高等学校	吉岡 宏晃
佳 作	埼玉県立春日部工業高等学校	荒井 朋子
佳 作	青森県立青森工業高等学校	八木澤 桐子
佳 作	神戸市立科学技術高等学校	上田 恭平
佳 作	静岡県立科学技術高等学校	江口 海斗
奨励賞	栃木県立宇都宮工業高等学校	阿部 あゆみ
奨励賞	新潟県立上越総合技術高等学校	石井 あゆみ
奨励賞	愛知県立碧南工業高等学校	磯井 卓磨
奨励賞	国立徳山工業高等専門学校	○延命 直人
		山中 隆貴
		村上 智哉
奨励賞	国立東京工業大学附属科学技術高等学校	亀崎 玲奈
奨励賞	日本工業大学駒場高等学校	君島 啓太
奨励賞	山梨県立甲府工業高等学校	小林 奈々
奨励賞	神戸市立科学技術高等学校	迫田 華菜
奨励賞	富山県立富山工業高等学校	島崎 彩圭
奨励賞	東京都立蔵前工業高等学校	田沢 安佳理
奨励賞	青森県立むつ工業高等学校	○浜谷 莉紗
		由美 由樹
		伊勢 寧々
		西山 駿介
		○三浦 夕那
		宮上 皓貴
奨励賞	静岡県立科学技術高等学校	森井 雄一郎
奨励賞	高知県立宿毛工業高等学校	柳谷 翔
奨励学校賞	宮城県白石工業高等学校	福島県立勿来工業高等学校
	新潟県立新発田南高等学校	静岡県立浜松工業高等学校

3D-CADプロダクトデザインコンテスト

全国から136点が応募。入賞作品の造形品を展示。



10月16日(日)、本学で第3回3D-CADプロダクトデザインコンテストの授賞式が行われた。今回、全国高等学校からテーマ部門「子供が乗る遊具」111作品(21校)、自由デザイン部門「エコロジーに関する”おもしろいもの”」25作品(11校)の出展があった。授賞式当日は、石崎友紀氏(札幌市立大学デザイン学部教授)の講演、入賞作品全ての造形品が展示された。

テーマ部門の最優秀賞は永川健人君

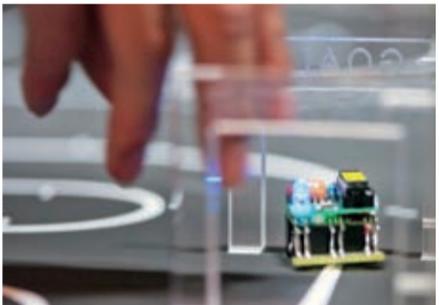


各賞	高校名	
奨励学校賞	愛知県立起工業高等学校	
奨励学校賞	長野県松本工業高等学校	
各賞	名前	高校名
テーマ部門:「子供が乗る遊具」		
最優秀賞	永川 健人	愛知県立起工業高等学校
特別審査員賞	小林 将幸	熊本県立八代工業高等学校
優秀賞	古田 佳奈恵	愛知県立起工業高等学校
優秀賞	大崎 恵	愛知県立起工業高等学校
優秀賞	丸尾 純平	兵庫県立姫路工業高等学校
優秀賞	高山 和也	長野県松本工業高等学校
優秀賞	高橋 克征	東京都立産業技術高等専門学校
審査員特別賞	林 敏也	徳山工業高等専門学校
審査員特別賞	沼田 竜騎	東京都立産業技術高等専門学校
審査員特別賞	北條 和輝	栃木県立真岡工業高等学校
佳作	竹藤 真紀	長崎県立長崎工業高等学校

各賞	名前	高校名
テーマ部門:「子供が乗る遊具」		
佳作	小泉 慎	長野県岡谷工業高等学校
佳作	小谷野 実香	日本工業大学駒場高等学校
佳作	チーム KMY	東京都立多摩科学技術高等学校
佳作	池田 泰彰	愛知県立鶴城丘高等学校
佳作	濱中 悠	東京都立府中工業高等学校
佳作	柴田 直起	群馬県立前橋工業高等学校
自由デザイン部門:「エコロジーに関する”おもしろいもの”」		
最優秀賞	該当なし	
優秀賞1	磯本 佑弥	徳山工業高等専門学校
優秀賞2	平田 裕樹	岐阜総合学園高等学校
優秀賞3	関根 慎介	東京都立産業技術高等専門学校
佳作1	藤井 俊介	和歌山県立和歌山工業高等学校
佳作2	小松 将平	秋田県立大曲工業高等学校

第5回マイクロロボコン高校生大会

全国から216台がエントリー。WEB中継も好評。



9月10日(土)に、本学でマイクロロボコン高校生大会が開催された。本コンテストは、1インチ角のロボットが所定のコースを自立的に走行し、時間を競うもの。わずか1インチ角のロボット内にCPUやバッテリーを搭載し、数十cmの大きさのロボットに匹敵する機能を持つ様に設計要求される。ロボットの構成材料も実習等で余った端材で製作が可能で、マイクロ化により省エネルギー・省資源をめざすエコロジーなロボットコンテストでも

ある。高校関係者に好評を博し、今大会で第5回大会を開催する運びとなった。全国から216台がエントリー、参加者は引率の先生等を含め250名以上にのぼった。また、今年度からコースが交差する交差点等が導入され、難易度も増している。インターネット上に対戦状況を動画配信するWEB中継は遠方からの参加校関係者に好評であった。優勝は、東京都立総合工科高等学校の中山惣一郎君。

順位・賞	高校名	操作者	ロボット名
優勝	東京都立総合工科高等学校	中山 惣一郎	シベリアンエクスプレス
準優勝	東京都立総合工科高等学校	兼子 貴裕	Z4 GT3
3位	東京都立総合工科高等学校	高橋 元	Element
4位	秋田県立大曲工業高等学校	佐藤 聖也	大曲工-S3
4位	東京都立総合工科高等学校	多田 貴裕	Wolf
4位	秋田県立大曲工業高等学校	橋 俊樹	大曲工-T1
4位	東京都立総合工科高等学校	前田 浩優	I LOVE MTB
4位	秋田県立大曲工業高等学校	高橋 博文	大曲工-H1
技術賞	東京都立総合工科高等学校	兼子 貴裕	Z4 GT3
ものづくり環境賞	長野県飯田工業高等学校	田嶋 成基	クレイモア
デザイン賞	岩手県立千厩高等学校	千葉 匠	AVS-04-抹茶
学長賞	長野県飯田工業高等学校	—	—

教員免許状更新講習、全工協会夏季講習を実施

免許状更新講習を8月1日(月)から5日(金)の5日間実施した。小学校・中学校・高等学校等の現職教員91名が受講し、うち46名は本学卒業生であった。遠方の青森県など東北地区からも多くの卒業生が受講していた。

受講者は、講習開始年度の平成21年及び22年度はいずれも46名であったが、今年度は倍増した。定員を超えたが、全員を受け入れた。講習は、必修講習と選択講習を開設したが、選択講習6講座の中で、受講者が多かった科目は、「バイオマスと環境技術」、「最新のナノテク技術」で、環境問題及び先端技術への関心が高いことがわかる。

本学では、工学部の特色を生かした工業・技術系の選択科目を開設しているが、今回は、受講者の希望等も参考に、カウンセリングや原子力教育など、今日的な課題についても開設に向け検討したい。

本講習が、大学と教育現場を結ぶ架け橋となり、学問研究の進展と実践的指導力向上という双方にとって有意義な研修として根付くことを期待している。

秋期学位記授与式、秋季入学式を挙行



柳澤学長から学位記を授与

平成23年9月20日(火)、秋期学位記授与式、留学生別科修了証書授与式が本学14号館5階会議室にて挙行された。この日卒業(修了)したのは、学部48名、大学院博士前期課程3名、博士後期課程3名、留学生別科4名で、今回これまで誕生した博士号取得者は合計100名となった。当日は、大川理事長、出井後援会長、土井工友会会長、大森駒場高等学校校長をはじめ多数の来賓や父母、教職員が出席し、柳澤学長が一人ひとりと握手を交わす場面もみられた。学位記授与式では、柳澤学長が「一人ひとりの成長を喜び、社会に貢献することを祈る」と述べた。また、10月1日(土)には、秋季入学式が挙行され、新入生3名、留学生別科7名が入学した。当日は、柳澤学長が「大学生活は新たな学びの場である」と激励した。

アップルの成功とプロジェクトマネジメント

専門職大学院だより

アップルの成功は、現代社会の驚異である。しかし、10年ほど前は熱心なファンはいるが、世界市場の中ではニッチなPCメーカーであった。2001年、Steve JobsがCEOに就任し、音楽市場への進出に活路を求めたが、iPod、iTunes、App Storeの単体販売だけでなく、それを媒体として音楽そのものをネット販売する総合的システム戦略を実行した。その後の10年ほどで、iPhone、iPadへ事業を拡張して、売上高5.2兆円、純利益1.1兆円(2010年)の超高収益会社となった。アップルの成功は、優れた戦略とその実行力にある。こうした戦略立案の方法論の一つがプロジェクトマネジメントであり、具体的な戦略実行の主要な技法がプロジェクトマネジメントである。従って、米国・欧州をはじめ中国・インドなど世界的にプロジェクトマネジメントの教育・研究が活発である。こうした中で、国内では日工大MOTがいち早くプロジェクトマネジメントコースを設け、基礎的なプロジェクトマネジメントから、戦略的なプロジェクトマネジメントまで、実務に即した教育・研究を行っている。その授業内容も、国内で最も充実しているひとつといえる。

ところで、日本のプロジェクトマネジメントは、世界一である。実務家教員各位による技術経営の諸分野の学習や個人別の課題研究と相俟って、院生諸氏の会社経営における戦略遂行に役立って、いまは小粒な姫リンゴでも、将来はアップルのような成長企業が現れることを夢見ている。

専門職大学院 オープンキャンパス日程

2011 12/3(土) 2012 2/4(土)

説明会、模擬授業、パネル討論会、キャンパスツアー等
 ◆詳細・最新情報はウェブサイトをご覧ください。 <http://mot.nit.ac.jp/>
 ◆事前に右記からお申し込みください。 <http://www.secure01.jp/mot/>

専門職大学院 入試日程

	第2回募集	第3回募集	第4回募集
出願期間	2011年10/31(月)~ 2011年11/7(月)	2011年12/19(月)~ 2012年1/10(火)	2012年2/13(月)~ 2012年2/20(月)
試験日	2011年11/13(日)	2012年1/15(日)	2012年2/26(日)
合格発表日	2011年11/16(水)	2012年1/18(水)	2012年2/29(水)
入学手続締切日	2011年11/26(土)	2012年1/28(土)	2012年3/10(土)

日本工業大学 専門職大学院 大学院技術経営研究科 技術経営専攻
 TEL. 03-3511-7591 E-mail: mot@kanda.nit.ac.jp

(別表3) 貸借対照表

科目	資産の部		
	H22年度	H21年度	増減
固定資産	39,377,256	38,007,289	1,369,967
有形固定資産	20,777,443	20,682,879	94,564
その他の固定資産	18,599,813	17,324,410	1,275,403
流動資産	4,212,500	4,477,838	△265,338
合計	43,589,756	42,485,127	1,104,629

(別表4) 資金収支計算書

科目	H23年度		
	H23年度	H22年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	5,993,588	5,903,313	90,275
手数料収入	51,551	48,121	3,430
寄付金収入	67,500	89,555	△22,055
補助金収入	704,313	585,600	118,713
資産運用収入	24,500	24,500	0
資産売却収入	0	0	0
事業収入	43,614	41,241	2,373
雑収入	350,464	162,407	188,057
借入金収入	0	0	0
前受金収入	1,783,313	1,886,336	△103,023
その他の収入	1,339,630	1,456,897	△117,267
資金収入調整勘定	△1,983,636	△2,152,949	169,314
前年度繰越支払資金	3,975,443	4,182,675	△207,232
収入の部合計	12,350,279	12,227,695	122,584

(別表5) 消費収支計算書の主要項目の分析表

主要項目の分析比率(%)	H22年度		
	H22年度	H21年度	増減
補助金/帰属収入	7.4%	8.5%	△1.1%
人件費/帰属収入	35.1%	36.0%	△0.9%
教育研究経費/帰属収入	33.3%	35.9%	△2.7%
管理経費/帰属収入	5.8%	5.9%	△0.1%
借入金等利息/帰属収入	1.0%	1.2%	△0.2%
人件費/学生納付金	42.4%	43.1%	△0.6%

第30回教育改革シンポジウム

第30回教育改革シンポジウムが「フレッシュマンゼミ(Fゼミ)」の現状と今後の展開」という議題で開催された。Fゼミは新入生にとって大学生活として本学での学びに慣れるために、また、教員にとって新入生を知り、きめ細やかな指導を開始する入口として重要な場である。各学科が実施しているFゼミの情報を共有しながら、現状の良い点と課題について活発な議論が行われた。学生が充実した大学生生活を送るため

第44期決算・第45期予算

日本工業大学の財務状況について

一、はじめに
 第四十四期決算、第四十五期予算が承認会計士及び法人監事の監査を受け、法人理事会・評議員会で承認決定されましたので、ここに財務諸表をお知らせし、関係各位のご理解と引き続きのご協力をお願いする次第です。

平成二十二年(二〇一〇年度)に本学が行った主要な事業等は次の通りです。
 ●新棟一八号館が平成二十三年三月に竣工、種々の新しい「学生フオーミュラ」及び規設備の導入も行き、同棟を利用する電気電子工学科、電気実験センター、創造シSTEM工学科の教育研究環境が一層向上しました。
 ●環境にやさしいものづくりをサポートする「環境化学ラボ」を開設し、自然科学系科目の充実を図りました。
 ●正面ロビー等の整備・改修工事にあわせ通行の安全性の向上と駐車スペースの拡充を図りました。
 ●学生プロジェクトである「学生フオーミュラ」及び規設備の導入も行き、同棟を利用する電気電子工学科、電気実験センター、創造シSTEM工学科の教育研究環境が一層向上しました。
 ●教育研究設備の充実
 ●平成二十二年(二〇一〇年度)に本学が行った主要な事業等は次の通りです。
 ●新棟一八号館が平成二十三年三月に竣工、種々の新しい「学生フオーミュラ」及び規設備の導入も行き、同棟を利用する電気電子工学科、電気実験センター、創造シSTEM工学科の教育研究環境が一層向上しました。
 ●環境にやさしいものづくりをサポートする「環境化学ラボ」を開設し、自然科学系科目の充実を図りました。
 ●正面ロビー等の整備・改修工事にあわせ通行の安全性の向上と駐車スペースの拡充を図りました。
 ●学生プロジェクトである「学生フオーミュラ」及び規設備の導入も行き、同棟を利用する電気電子工学科、電気実験センター、創造シSTEM工学科の教育研究環境が一層向上しました。
 ●教育研究設備の充実
 ●平成二十二年(二〇一〇年度)に本学が行った主要な事業等は次の通りです。
 ●新棟一八号館が平成二十三年三月に竣工、種々の新しい「学生フオーミュラ」及び規設備の導入も行き、同棟を利用する電気電子工学科、電気実験センター、創造シSTEM工学科の教育研究環境が一層向上しました。
 ●環境にやさしいものづくりをサポートする「環境化学ラボ」を開設し、自然科学系科目の充実を図りました。
 ●正面ロビー等の整備・改修工事にあわせ通行の安全性の向上と駐車スペースの拡充を図りました。
 ●学生プロジェクトである「学生フオーミュラ」及び規設備の導入も行き、同棟を利用する電気電子工学科、電気実験センター、創造シSTEM工学科の教育研究環境が一層向上しました。
 ●教育研究設備の充実

四、むすび

平成二十三年(二〇一一年)度は、大震災の影響を受け、補助金政策が大きく転換する年度となります。その中で完成年度(平成二十四年度)を迎える七学科体制を基礎として、大学は引き続き充実した教育研究を推進してゆく所存です。そのためには、学生、ご父母、卒業生の皆様のご理解が不可欠であります。これからも関係各位の皆様のご協力をお願い申し上げます。(財務部)

支出の部

○支出の部
 人件費は前年度比二千九百万円の減少となり、私費外国人留学生補助金の打ち切り等の要因もあり七千六百万円の減少となりました。教育研究経費は総額で二百五十九億九千九百万円となり、前年度比一億六千五百百万円の減少となりました。主な要因は減価償却費の減少によるものです。学生への還元を表す教育研究費比率(別表5)も参照は約三三・三%であり、全国的にも高い水準を維持しています。

三、平成二十三年(二〇一一年)度 予算について
 (資金収支計算書)
 平成二十三年(二〇一一年)度の資金収支計算書(別表4)の概略は次のとおりです。主たる収入である学生生徒等納付金収入は翌年度に完成年度を迎える七学科体制を意識しつつ、学生数を厳しく予測した予算となりました。補助金は今後も積極的に申請獲得を目指します。
 教育研究経費支出は直接学生諸君に係る経費のため、高水準を維持すべく予算としました。また三月に発生した東日本大震災で被災された学生支援を計上しました。施設・設備関係支出では、地震で被害を受けた施設・設備の修繕、節電対策、生活環境デザイン研究棟の新設を見込む予算としました。

学生フォーミュラ大会に参戦

9月5日(月)から9日(金)にかけて、静岡県のエコーパ(Ogasayama Sports Park)において、全日本学生フォーミュラ大会が開催された。この大会は、ものづくりの総合力を競うものであり、設計・コスト・事業プレゼンからなる静的審査、実際に走りながら動的審査の2つで評価される。

昨年は、全動的種目の完走を目指し、それを達成して総合27位を得た。2年目の今年は、目標を総合5位以内に設定し、低重心のマシンを新規に設計、製作し大会に挑んだ。目標は達成出来なかったが、動的種目最大のエンデュランス&燃費競技で4位の成績を得ることができた。静的種目



国内外の大学から87チームがエントリー

子どもたちを対象としたものづくり体験の場

宮代町、杉戸町の小学生を対象とした「親子ものづくり教室」が、毎年恒例となっている。8月6日(土)に、本学のスチューデントラボで開催された。



綿菓子製造機を製作する親子

今回で11回目を迎えた本企画は、主に宮代町と杉戸町在住の小学生対象で、今年度は「親子ものづくり教室」が8月6日(土)に、本学のスチューデントラボで開催された。

今年度は、「親子ものづくり教室」が8月6日(土)に、本学のスチューデントラボで開催された。今回は、綿菓子製造機を製作する親子が中心で、親子で協力して製作した。また、紙飛行機や紙飛行機など、親子で協力して製作した。また、紙飛行機や紙飛行機など、親子で協力して製作した。

第15回スターリングテクノラリー 11月12日(土)開催

自作スターリングエンジンを搭載した車両でスピードとアイデアを競う「第15回スターリングテクノラリー」が11月12日(土)、本学で開催される。青少年の工学に対する興味・関心の喚起と関連技術の発展・向上を目的としている。今年度は人間乗車、RC(無線操縦)、宙返り耐久、ミニ速度、クーラ(3V・100V)の6クラスが設定されており、各クラス合わせて182チームが全国から参加する予定である。主催はスターリングテクノラリー技術会、(社)全国工業高等学校長協会、(社)日本工学教育協会、本学も協賛。



宙返り耐久クラスのコース

おもしろものづくり教室

埼玉県が主催する連携事業で、科学、ものづくりなど5つの分野の一流プロに接する子供教室である。本学は、「日本工業大学のおもしろものづくり教室」を今年度も100%で開催する。8月27日(土)小学生と保護者36組がスチューデントラボに集合、楽しい一日教室が始まった。テーマは昨年と同じ「偏光万華鏡」(服部邦彦准教授指導)と「2足歩行紙ロボット」(増本憲泰講師指導)である。紙ロボットはヤシロペー型で、バランスを上手にとるのがコツ。子供たちは苦心しながらバランスを調整、



紙ロボットの説明に聞き入る子どもたち

斜面上を手にロボットが下ると満面の笑顔になった。また、偏光万華鏡は偏光板を通して光の屈折を利用して完成した万華鏡のぞき、その美しさに子供達は満ち足りていた。なお、この教室参加者の満足度は昨年同様今年も100%である。

第6回ビジネスプランコンテスト 受賞者決定

応募総数194件、応募者数284名のビジネスプランから書類審査により25件が選ばれ、9月20日(火)にプレゼンテーションが実施された。この最終審査により、優秀賞8件、奨励賞7件が決定、優秀賞8件の中から、学長賞、審査員特別賞、宮代町長賞、産学連携起業教育センター長賞が決定された。尚、表彰式・特別講演(三菱自動車のEV開発)は、11月4日(金)13:00~本学学友会館にて開催する。

子ども大学みやしろ

埼玉県教育局提唱の連携事業。本年度は、県内10市町で展開中。本学も参加する実行委員会が事業を企画した。第3日はスチ



10月1日にLCセンターで入学式が行われた

カルナナヤカ君が「ポスター発表優秀賞」受賞

「発表優秀賞」を受賞した。本会議は関連技術でタイのリーダ的存在であるチュラロンコン大学、キングモンクット大学、両校と関係の深い本学、日本画像学会の共催により開催された。



システム工学専攻博士後期課程3年のティスナ・カルナナヤカ君(スリランカ出身、星野研究室)が8月18日、画像・プリント技術国際会議において「ポスター発表優秀賞」を受賞した。本会議は関連技術でタイのリーダ的存在であるチュラロンコン大学、キングモンクット大学、両校と関係の深い本学、日本画像学会の共催により開催された。

人事異動

- 【任用】(10月1日付)
 - ◆桑野文洋准教授(情報工学科) 昭和40年11月4日生まれ。平成2年3月早稲田大学大学院理工学研究科工学専攻修士課程修了。博士(工学)(早稲田大学)。前(株)三菱総合研究所情報技術研究センター主任研究員。
 - ◆鈴木仁講師(共通教育系) 昭和32年4月28日生まれ。昭和58年3月明治学院大学大学院文学研究科英文学専攻博士前期課程修了。修士(文学)。前日本工業大学非常勤講師。
- 【昇任】(10月1日付)
 - ◆丹澤祥晃准教授(ものづくり環境学科) ↓教授に昇任
 - ◆神野健哉准教授(電気電子工学科) ↓教授に昇任
 - ◆鈴木宏典講師(ものづくり環境学科) ↓准教授に昇任
 - ◆清水博幸助手(超高電圧研究センター) ↓助教に昇任
 - ◆全敬策助手(総合研究センター) ↓助教に昇任
- 【任命】(10月1日付)
 - ◆共通教育系主任 城戸卓男教授(新任)
 - ◆ものづくり環境学科主任 小野雄策教授(新任)
 - ◆電気電子工学科主任 石川豊教授(新任)
 - ◆建築学科主任 小川次郎教授(新任)

国外出張

- ◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先: タイ(8/30~9/5) / 目的: 日本留学フェアにおける学生募集活動および協定校(KMUTT)における研究打合せ
- ◆田中隆治准教授(英語教育センター) / 出張先: カナダ(9/2~9/3) / 目的: カナダ研修事前打ち合わせ
- ◆波多野純教授(生活環境デザイン学科) / 出張先: カナダ(9/4~9/10) / 目的: 2x4木造建築工房によるカナダ研修所の建設作業指導
- ◆那須秀行准教授(建築学) / 出張先: スウェーデン(9/6~9/14) / 目的: ルレオ工科大学との共同研究実施、協定締結に向けた同意書の内容擦り合わせ
- ◆田中隆治准教授(学修支援センター) / 出張先: アメリカ(9/4~9/14) / 目的: 子供の育て方、育ち方、教育は機能しているか? 取材
- ◆勝木祐仁准教授(生活環境デザイン学科) / 出張先: カナダ(9/4~9/15) / 目的: 2x4木造建築工房によるカナダ研修所の建設作業指導
- ◆野口憲治助手(建築学) / 出張先: カナダ(9/4~9/15) / 目的: 2x4木造建築工房によるカナダ研修所の建設作業指導
- ◆田村仁講師(創造システム工学科) / 出張先: ドイツ(9/11~9/15) / 目的: 知識ベースおよび知的情報工学システムに関する国際会議での発表
- ◆吉田清准教授(電気電子工学科) / 出張先: アメリカ(9/11~9/16) / 目的: 第57回IEEE電気接点に関するホルム会議における研究論文発表
- ◆上野貴博准教授(電気電子工学科) / 出張先: アメリカ(9/11~9/16) / 目的: 第57回IEEE電気接点に関するホルム会議における研究論文発表
- ◆江藤善助教(情報工学科) / 出張先: ドイツ(9/11~9/17) / 目的: 知識ベース、知的情報とエンジニアリングシステムの国際会議にて研究発表
- ◆張曉友准教授(機械工学科) / 出張先: 中国(9/12~9/19) / 目的: 「磁気浮上アクチュエータ」に関する共同研究打合せと研究成果の報告
- ◆二ノ宮進一准教授(機械工学科) / 出張先: アメリカ(9/18~9/25) / 目的: 国際低粒加工学会での論文発表・研究調査
- ◆呉志良准教授(留学生別科) / 出張先: 中国(9/23~9/26) / 目的: 日本留学フェア2011に参加
- ◆星野坦之教授(創造システム工学科) / 出張先: アメリカ(10/1~10/8) / 目的: 環境配慮の観点から再生紙を使用しております。



注意! 貸貸アパートの退去

大学卒業と同時に賃貸アパートから退去する方も多いと思います。退去の際、特に注意したいのが賃貸物件に対する借主の現状回復です。荷物を運び出して部屋を掃除した後、家主と立ち会い、部屋の破損・汚損状況を確認します。後日、修繕金額を提示されるので、借主が負担すべき費用かどうかを確認します。現状回復をめぐるトラブルとガイドライン(国土交通省)を参考にしてください。トラブルにならないためにも、普段から室内を丁寧に使いましょう。家主の第一印象で修繕金額が変わることも多いようです。

編集後記

日本人として初めてノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹は生前「明日はこれ、というように、あまり気が散ると、結局どれも、ものにならないですね」と著書の『自己発見』で語っていた。その日、その時の気分、あちらこちらに目移りしているようならば脈はない。そしてそのような、いい加減過ぎる状態が続けば、ものにならない。これは、この意味だ。よく「当たり前」のことのように思えるが、実はそうではない。集中して取り組む力と継続して事に及ぶ姿勢、そして深く掘り下げる意欲のどれひとつが欠けても事態は進展しないからだ。まさに、三位一体とはこのことを指す。▼学問に限らず、どの分野においても根気よく一つのテーマを追求していく姿勢があれば必ずものになる、との示唆でもある。道を究める作業は極めて奥が深い。▼秋学期が始まった。ただいまは原点を立ち戻ろう。在校生の皆さんの益々の発展を期待したいものだ。(信)